



# DX推進計画

2025年12月15日

# 目次

1. 代表からの挨拶
2. DX推進の背景と目的
3. 経営理念、DXビジョン
4. ビジネスモデルの方向性
5. DX戦略と具体的な取り組み
6. DX推進体制
7. DX人材の育成と確保
8. ITシステム環境の整備
9. DX戦略の達成指標

# 1. 代表からの挨拶

私たち本間建設は、創業以来100年以上にわたり、地域とともに歩み、暮らしを支える社会基盤の整備に取り組んでまいりました。しかし、建設業界を取り巻く環境は、少子高齢化や担い手不足、気候変動への対応など、大きな転換期を迎えており、これまでと同じやり方のままでは、次の世代に持続可能な地域社会を引き継ぐことは難しいと考えています。

そのために当社は、『少人数でも持続可能な施工体制を整え、社員が幸せに働ける会社として、地域インフラと人材の両面を守る』というビジョンを掲げ、DX推進に踏み出しました。

私たちが進めるDXは、単にITを導入することではありません。「業務プロセスの見直しによる生産性向上」、「社員一人ひとりの成長と働きやすさの両立」、「そして地域社会を支え続けるための技術伝承」—— この3つを柱としています。

私は経営者として、DXを“人を中心とした経営の変革”と捉えています。社員一人ひとりが「自分の会社はいい会社だ」と実感できる環境をつくり、わが社の使命である、『大切な人と地域を守り続ける』ために、時代の変化に柔軟に対応し、挑戦し続ける会社を目指します。

この挑戦を通じて、これからも地域に必要とされる企業であり続けるため、全社一丸となってDXを推進してまいります。

2025年12月15日

代表取締役 本間 寿正



## 2. DX推進の背景と目的

### 背景(リスク)

人手不足  
労働力の減少

デジタル対応の遅れ  
による競争力低下

技術伝承の遅れによる  
技術力(現場力)の低下



### 目的(機会)

#### ○ 生産性向上と業務効率化の促進

デジタル技術を活用し、生産性向上と業務効率化を実現。限られた人員でもより多くの案件に対応できる体制を整える。また、「働きやすさ」や「やりがいと成長」を感じられる職場づくりを進め、若手人材や女性社員の活躍促進、中長期的な人材確保、定着につなげる。

#### ○ 現場とオフィス両面でのデジタル対応推進

現場におけるICT施工やモバイル端末の活用、オフィスにおけるクラウド化や電子申請等のデジタル対応を進め、生産性や品質、受注機会、人材確保において競争優位性を高める。

#### ○ 技術伝承・知識共有の高度化

デジタル技術を活用し、施工データや工事記録をデジタル化・共有化。熟練技術者のノウハウを継承し、組織全体の技術力(現場力)の底上げを図る。

リスクを機会ととらえ、  
DXで改善しよう！



### 3. 経営理念、DXビジョン

経営  
理念

ここで暮らす人たちの安全・安心を守り、利便性・快適性を向上させ、あたりまえな日常を途切れさせない。  
私たちが関わる全ての人々の「幸せ」のために、「誠実・堅実」、「創意工夫・総力結集」を合言葉に、大切な人と地域を守る仕事を誇りをもって全力で取り組む。

DX  
ビジョン

- ▶ 少人数でも持続可能な施工体制を築き
- ▶ 社員が幸せに働く会社として
- ▶ 地域インフラと人材の両面を守る

# 4. ビジネスマodelの方向性

## 1. 地域インフラを守り続ける

これまで以上に効率的に施工・維持管理を行えるようにDXを活用。少人数でも対応できる施工体制を確立し、地域に不可欠な建設会社として存続・成長する。

## 2. 人材が定着・成長する魅力ある職場

業務のデジタル化・自動化により単純作業を減らし、社員がやりがいや成長を実感できる環境を整備。社員満足度を高め、外部からも「働きたい」と思われる会社を目指す。

## 3. 知識・技術の蓄積と継承

施工ノウハウや現場情報をデータ化・共有し、ベテランから若手へのスムーズな技術伝承を実現。属人的スキルを組織の資産へ変え、将来にわたり安定的な施工力を保持する。

# 5. DX戦略と具体的な取り組み

## 戦略1. 業務プロセス変革による生産性と品質の両立

- ◆クラウド型グループウェアや電子承認システム、ネットワークカメラ、施工管理アプリ等を活用して、現場・本社・発注者間の情報連携を強化する。
- ◆施工記録・資材・工程・品質などのデータをクラウド上で一元管理し、重複作業の削減とミス防止を図ることで、「現場を止めない」「判断を遅らせない」「情報を共有する」体制を実現する。加えて、ドローン測量やICT建機、3D設計データ作成ソフトなどの活用を進め、従来の2次元設計図面を3次元データ化することで、出来形精度を高めつつ施工管理を効率化する。

## 戦略2. 人材成長と組織文化の変革

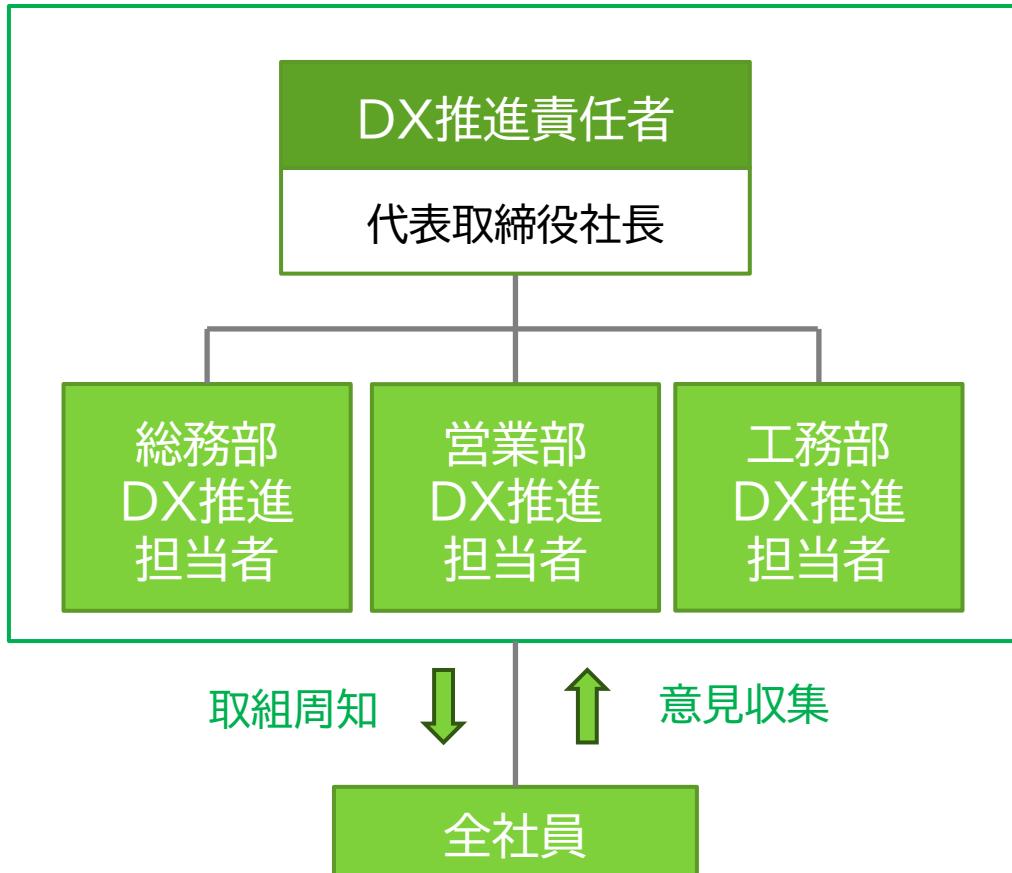
- ◆社員が自ら課題を見つけ、デジタルツールを活用して解決できるよう、社内勉強会やナレッジ共有を推進する。これにより、職種・世代を超えて学び合う、現場が育つ組織文化を形成する。
  - ◆RPA(業務自動化)やAI分析ツールを段階的に導入することで、無駄な転記や集計作業を削減し、社員が付加価値業務に専念できる環境を整える。
- 結果として、ワークライフバランスの改善と人材定着を両立する「働きやすく成長できる職場づくり」を実現する。

## 戦略3. 技術継承と企業知見の資産化

- ◆熟練技術者の経験やノウハウをデジタル化し、教育・品質向上に活かす。施工写真・報告書・日報・品質管理データ等を体系的に蓄積・共有し、類似案件の改善や手順標準化に活用する。
- ◆若手はデータに基づき効率的に学び、ベテランは自身の知識を「資産」として次世代に伝えることができる。

# 6. DX推進体制

## DX推進チーム



### 【基本方針】

当社は、経営トップのリーダーシップのもと、経営層・オフィス・現場が一体となる自社完結型のDX推進体制を構築する。経営者自らがDX推進責任者を務め、全社の方向性と優先投資を明確化する。

現場の実情に通じたリーダー層が業務改革とシステム開発を連動させ、実行力と継続性のあるDXを推進する。あわせて、定期的なモニタリングと検証を制度化し、改善を継続する。

# 7. DX人材の育成と確保

## 【人材育成の方針】

当社は、全社員がデジタル基礎力を備え、現場力と掛け合わせて価値を生む人材像を明確に掲げます。単なるツール操作ではなく、現場課題の解決に直結するスキル育成にコミットします。

外部講習、eラーニング等  
による学びの日常化

ICT施工リーダーの  
養成

主要プロセスの  
ドキュメント化

## 【人材確保の方針】

地域に根差す企業として、即戦力と将来の担い手の双方を歓迎します。働きやすい職場環境を継続的に整備し、長く安心して力を発揮できる会社であることを約束します。

採用目標  
新卒2名/年 中途1名/年

入社3年定着率  
85%以上

事務負荷を軽減し、残業  
抑制と休暇取得を推進

## 8. ITシステム環境の整備

当社は、DX戦略を実効性ある形で推進するため、

①業務効率化 ②データ利活用 ③安全性向上

の3視点から、段階的にITシステム環境の整備を進め、持続的にDX関連投資を拡充していきます。

①業務効率化	<ul style="list-style-type: none"><li>・クラウド環境の整備</li><li>・グループウェアによる情報共有基盤の高度化</li><li>・モバイル端末・アプリケーションの活用促進</li><li>・RPAツール、AI関連等の段階的な整備</li></ul>
②データ利活用	<ul style="list-style-type: none"><li>・ICT施工および3Dデータ活用環境の整備</li><li>・レガシーシステムからの脱却</li><li>・社内外のデータ連携を見据えた投資</li></ul>
③安全性向上	<ul style="list-style-type: none"><li>・情報セキュリティ基本方針を策定し、「SECURITY ACTION 二つ星」を宣言</li><li>・外部からの不正アクセス対策の強化</li><li>・研修等による社員の情報セキュリティ意識向上</li></ul>

# 9. DX戦略の達成指標

フェーズ1 ~2026年10月

クラウド型  
グループウェア活用率  
70%以上

ICT活用工事  
1件

ドローン運用者  
2名以上

フェーズ2 ~2028年10月

定型業務の  
デジタル化率  
50%以上

ICT活用工事  
導入比率  
主要工事の20%

残業時間  
20%以上削減  
※2024年比

フェーズ3 ~2030年10月

DX提案件数  
6件/年 以上

ICT活用工事  
導入比率  
主要工事の50%

社員満足度  
70%以上